

日本生殖看護学会ニュースレター

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)



目次

・第6回日本生殖看護学会学術集会報告	1
・第6回日本生殖看護学会学術集会事例検討会報告	2
・第6回日本生殖看護学会学術集会に参加して	2
・第5回生殖看護実践セミナー報告	3
・第5回生殖看護実践セミナーに参加して	4
・理事会報告	4
・第6回日本生殖看護学会総会報告	5
・これから行われる学会・研修会等のお知らせ	6
・もし不妊看護の現場で行き詰まったら	7
・不妊症看護認定看護師リレー寄稿 No.3	7
・各地区で開催する勉強会の支援	8
・掲示板	8
・事務局からのお知らせ	8

第6回日本生殖看護学会学術集会報告

—カップルの親密さ：危機を乗り越えるための方略—



兵庫県立大学看護学部 野澤 美江子



7月20日、例年にない猛暑の中、兵庫県立大学明石キャンパスにお出かけくださいました皆様に感謝申し上げます。連休中であることから参加者が少ないのではと、不妊治療のみならず、がん医療に携わる方々等、多くの方々にお声をかけさせていただきました。その結果、204人とたくさんの方々にご参加いただき、本当にありがとうございました。それにも関わらず、公立大学という性格上、全館冷房を入れられず、快適な環境を提供できなかったことをこの場を借りてお詫び申し上げます。

今年の学術集会では、2つのチャレンジを試みました。1つは、がんの治療を受け生殖機能を脅かされているカップルへ着目するという、生殖看護の対象者を広げたことです。近年、がんの治療をこれから受けようとしている人々や現在受けている人々が不妊治療施設を受診しているケースが増えています。しかし、これまで子どもが欲しいという明瞭な目標を持って受診しているカップルに関わることの多かった私達には、彼らがどのような体験をしているのか理解できず、またどう対応して良いか戸惑うことも多かったように思います。そこで、今回そのスペシャリストの先生方にシンポジウムで話していただく機会を設けました。がん医療の実態と最新の傾向のみならず、がん患者さんカップルが、がんからのサバイバルと不妊と言う、いずれも不確かな現象をいかに苦悩しつつ、意思決定に揺れているのか、まさに私達が知りたかった知見を得ることができました。そして、不妊治療を提案する際に、或いは不妊治療を受ける上で、患者さんにとって最も良い選択ができるように、がん医療の現場と不妊医療の現場が連携し合うことの重要性も実感しました。今回の企画が、今後の連携の動きにつながってもらえたら幸いです。



もう1つは、事例検討会の開催です。臨床の中で対応に悩む事例に多く遭遇しますが、その対応を看護者間で振り返ったり、新たな意見を求める機会は決して多くありません。そこで、実践報告や研究発表ほど堅苦しくなく、提示された事例の看護について参加者が自由な意見を言い合える場を設けたいと思いました。初めて

の試みだったので反響が気になったのですが、参加下さった方々には大変好評いただき、企画委員一同、胸をなで下ろした思いです。また、個人情報の保護もあることから、会員限定で行ったところ、急遽会員登録が増えるなど、二次的効果もありました。

学術集会の成功は、終わってからも皆様の記憶に残り、翌日からの実践につなげてくださっているのかにかかっていると思っています。今回の学術集会での収穫が、様々な臨床の場での種まきにつながり、さらに広がっていただけることを望んでおります。また、来年、今度は三重でお会いしましょう。

❖第6回日本生殖看護学会学術集会、事例検討会報告(1)

公立学校共済組合近畿中央病院 石岡 伸子

【テーマ】体外受精に納得していない夫へのアプローチ

※注：事例の情報は個人情報保護のため加工しています。

【事例紹介】A氏30歳 会社員 夫B氏35歳 会社員

夫婦ともに育児希望をしているが、4年間不妊状態が持続している。現在は人工授精を6回終了するも、妊娠には至っていない。5回目の人工授精が終了後に夫婦で、講義形式の体外受精セミナーを受講し、受講直後会場でB氏が体外受精を否定する発言をして退出してしまう。A氏は否定させたことで流涙する。数日後A氏より連絡があり、治療は一時中断するが、夫には内緒で、尿LHと薬（排卵誘発剤）が欲しいとの申し出だった。そして2ヵ月の通院中断ののち連絡があり、1回だけ体外受精を行うことを決定し、妊娠するも妊娠9週目で流産してしまった。採卵時はB氏も付き添い、精子や胚の状態を熱心に質問していた。凍結胚が残っているので治療再開の連絡はいるも、夫に聞かれるのですぐ切りますと会話の途中で電話をきってしまった。

【ディスカッション内容】

1. 医療職がアプローチしているのが妻（女性）のため、夫（男性）に対する積極的なアプローチを行っていない。どのようにアプローチしたらいいのかわからないという意見が多くあり、苦手意識を持っている。
2. 夫（男性）は疑問点などを治療施設に問い合わせるのではなく、市や県で行っている不妊電話相談や保健センターなどを利用していることが分かった。また相談内容も、費用のこと、医療が介入することの対抗、自分一人取り残されている感情などであった。
3. 体外受精の説明に関して、集団指導でなく個別指導を行い、夫婦が共通の知識を持って治療に望めるよう説明後にテストを行い、理解度を確認している施設もあった。

【まとめ】

参加者は13人で、行政職・医療職（個人クリニック・総合病院）・看護系学生であった。夫（男性）に対するアプローチを苦手と感じながらも、夫婦が納得して治療を受けてもらうためにいろいろな試みが行われていることが分かった。夫（男性）に対するアプローチの方法までは話し合うことができなかったが、夫が悩んでいる内容も分かり、今後のアプローチのヒントになったと思う。

❖第6回日本生殖看護学会学術集会に参加して

熊本赤十字病院 赤松 房子

7月20日兵庫県立大学明石キャンパスで開催された第6回学術集会に参加した。生殖看護に関わっていないながら、これまで学会員としての登録もしていなかった私であったが、関係者からのお勧めもあり、また自分自身も参加したいという強い衝動(?)にかられ、学会間近になって会員登録申請をするという事務局の方へは多大な迷惑をかけながらの慌しい初参加であった。私に起こった衝動…それはメインテーマに掲げられていた「カップルの親密さ：危機を乗り越えるための方略」について、日常のケアで悩む場面に多々直面する中から起こったものである。私は母性看護専門看護師として活動する中で、不妊治療中、そして治療後妊娠の方へも多く関わりを持っている。不妊治療においては、当事者である夫婦の信頼関係が重要であり、治療の選択、継続・中断、延びては治療後妊娠・出産・育児へ影響を及ぼす。実践を通してそのことを痛感しているだけに、何らかの方略を見出したかったのである。野澤会長の講演では、カップルの親密さについて改めて考える機会と自己表出を促進するケアの大切さを学ばせて頂いた。介入プログラムとして紹介された「不妊ケア.com」のサイト上で展開されている「親密さ診断プログラム」や「親密さ向上プログラム」は、対象となるカップルへ活用を勧めたいと思った次第である。一般演題では、治療を継続的に支える上でのシステムや相談室の運営、そして不妊治療後妊娠・出産で「夫婦間で考えを共有する」ことの大切さを再認識した。またシンポジウムでは、がん医療におけるサバイバルな現状の中、他職種や他の認定看護師と生殖看護における連携について「協働」という立場で考える機会を得た。

さて、学会参加に際して私が会員登録を是が非でも希望した理由…それは、ランチタイムを利用して行われた会員に限定された事例検討会への参加である。「学会で事例検討会？」これまでは経験のないプログラムであった。そうであれば、この機会を逃してはいけない。そして実際に参加できたことで会長講演、一般演題、シンポジウムの内容を繋げ、より深め、カップルへの支援において自らの実践活動を見直し、整理するに効果があったと感じている。そして、不妊症看護認定看護師をはじめ、多くの看護職の方々が生殖看護に携わり、日々研鑽を積んでいる姿とその成果に触れることができ、新たなエネルギーを頂くことができた。今回の学会で頂いた貴重なエネルギーと多くの示唆に感謝するとともに私自身の今後の活動へぜひ活かしていきたいと思っている。

日本生殖看護学会 /
日本看護協会併催

第5回生殖看護実践セミナー報告

テーマ 「不妊治療後に妊娠した夫婦への継続的支援」
日時：平成20年7月19日（土） 13：30～16：30
場所：日本看護協会神戸研修センター

プログラム

- 13：30 挨拶・オリエンテーション
13：40 「不妊治療後に妊娠した夫婦の経験と望む支援」
不妊治療経験者の立場から
14：00 「不妊治療施設と妊娠後の施設との連携」
神戸大学付属病院 山下 直美氏
14：40 小グループによるディスカッション
15：00 全体によるディスカッション
16：20 まとめ

酷暑にもかかわらず、71名（うち、一般の方を含め非会員12名）の参加があり、活発なディスカッションが行われた。

はじめに、不妊治療を経験後に出産された女性より、「薬をもつかむ気持ちでどのような治療にもチャレンジしようとする患者のあせり」「治療のやめどきに対する悩み」「子連れで受診する他の患者へのストレスと治療環境」「信頼できる看護師との出会い」「出産施設を選択するための情報提供」「妊娠後の不安や産後のマニティブルーに対する医療者の気配りや連携」など、経験された具体的な出来事と医療者へ望む支援について話していただいた。看護師がいつもそばにいてくれると感じたことや医療者からさりげなく気にかけてもらえるうれしさと安心感によって、自分の気持ちを言葉にし、現状を見つめ直す機会になったことなど、医療者との良好な関係を築くことの重要性について話された。

次に、山下氏より、不妊治療施設と妊娠・出産を管理する施設の連携の現状と課題について、勤務施設のスタッフへのアンケートを踏まえて話していただいた。スタッフのほとんどが不妊治療施設と妊娠・出産を管理する施設との連携や、妊娠・出産を管理する施設と地域との連携ができていないと感じていることが報告された。さらに、不妊治療後に妊娠・出産された方の中で、子どもとの愛着形成に問題をかかえていたり、育児の準備が十分にできていない事例なども紹介された。妊娠・出産後の看護を実践されている経験から、不妊治療期間が長い場合、ARTを経験している場合、AIDを経験している場合、高齢妊娠の場合、精神的な問題を抱えている場合に関しては、特に継続看護が必要であることが話された。また、勤務施設内の退院支援センターや継続看護委員会の取り組みについても紹介していただいた。

ディスカッションの主な内容

- ・不妊治療施設と妊娠・出産を管理する施設の医師間では情報提供がされている。しかし、不妊治療に関してのみであり、治療中の心理面などについては情報提供がされていない。
- ・不妊治療施設から妊娠・出産施設に看護サマリーを送りたいと思っても、患者から不要と言われることがあり、必要な情報を提供することの難しさを感じている。

- ・妊娠・出産施設に情報提供をしても、その後の経過について報告がなく、どのように支援されたのかが分からない。次の治療に役立てることができない。
- ・看護サマリーを提供しても、妊娠・出産施設で医療者と患者の信頼関係がなければ活用できない。
- ・医療者と患者との間に信頼関係があれば、患者は自ら不妊治療を経験したことなどについて、妊娠・出産施設の医療者に話をするのではないかと感じる。不妊治療施設からの情報提供が必ずしも必要だとは思わない。
- ・妊娠・出産に関するバースプランを共有する過程で、不妊治療の経験について語られる場合もある。過去のことを振り返りながら、出産・育児に向けて前向きになっていくことや、妊娠してもすぐには今後のことを考えられない場合があることを看護者が十分に理解しておくことも必要である。
- ・AIDなど不妊治療の種類によって、医療者からの介入が必要であると決めつけたり、妊娠中や出産後の特別な反応を不妊治療を経験したことの原因があると先入観でとらえるのは適切ではない。
- ・看護者の主観で看護サマリーを作成したり、看護者がサマリーを作成して患者に許可を得るのではなく、「患者と一緒に作るサマリー」が必要である。
- ・出産後すぐに次の不妊治療を相談してこられる方もいるが、母乳育児の目途や第1子を育ててから考えてみてはどうかという助言に傷ついたと言われたことがある。看護師の価値観を押し付けずに、まず第2子をほしいという当事者の気持ちを大切に、必要な情報提供をしていくことが大切である。

出席者のアンケートより

- ・不妊治療後に出産された方から、治療中のことや妊娠・出産のことを振り返って聞く機会は少ないので、非常に貴重で役立った。
 - ・治療を経験された方の具体的な経験談を聞き、当事者の立場にたった看護や環境づくりをしなければならぬと痛感した。
 - ・大変な不妊治療の経過が現在の幸せな育児につながっているのを知り、非常にうれしかった。
 - ・不妊治療後の連携が十分に行えていない現状と問題点がわかり、ネットワーク作りに役立つと思った。
 - ・不妊治療後はハイリスクなのかということを考え直す機会となった。
 - ・不妊治療後の妊産婦さんに対する先入観をもたないようになりたいと感じた。
 - ・不妊治療から妊娠後のフォローアップのために、「患者さんと一緒に作るサマリー」という視点はとても大切であり、早速活用できると感じた。
 - ・不妊治療後の情報提供（特に心理面）は必要なものと思っていたが、医療者と患者の信頼関係や、提供した情報の活用方法を考えると、本当に必要なのかを考え直す機会になった。
 - ・小グループでのディスカッションは、他の施設の看護や治療環境、看護者の悩みなどを共有する機会になり、とてもおもしろかった。
 - ・全体のディスカッションでは、様々な立場や相反する意見を聴くことができ、面白かった。刺激になった。
- 報告：坂上 明子（埼玉県立大学保健医療福祉学部）

第5回生殖看護実践セミナーに参加して

浅田レディースクリニック 岩田 奈津

今回、7月19日に開催された、第5回生殖看護実践セミナーに参加させていただきました。実践セミナーに参加させていただくのは、昨年に続き2回目となります。当事者の方や不妊症看護認定看護師の方、様々な職種、地域、施設で活躍されている方々の貴重なお話を聞くことができ、有意義な時間を過ごすことができました。

私達のクリニックは不妊専門外来であり、分娩施設を有していません。妊娠された患者様は8~10週で他施設へ紹介させていただいております。これまで、妊娠された患者様への継続的な支援や、紹介施設への情報提供は足踏み状態ではとんどできていないのが現状でした。実践セミナーのテーマであった「不妊治療後に妊娠した夫婦への継続的支援」は、私達の大きな課題でした。今回「不妊治療後に妊娠した夫婦の経験と望む支援」、「不妊治療施設と妊娠後の施設の連携」という患者様と看護者双方のお話を聴く事ができると知り、看護に生かせるヒントを見つけられるのではないかと期待を胸に会場へ足を運びました。

セミナーの中で特に印象に残っていることは、通っていた病院に以前いた看護師の方を頼って転院したというお話でした。少し意味合いは違うかもしれませんが、これも、まさしく信頼関係イコール継続的支援ではないでしょうか。毎日、限られた時間とスタッフの中で、患者様とどれだけ向き合っているのでしょうか。そう考え出したら、悶々としてしまいますが、きっとこの看護師の方も忙しく看護をされていたに違いありません。継続的支援はまず、今の施設でどれだけ患者様と信頼関係が結べるかが重要だと思います。会場内では、情報提供に関して賛否両論でしたが、信頼関係が結べることで、おのずとその患者様にとってプラスになる支援、情報提供ができるのではないのでしょうか。患者様の大切な個人情報をお預かりしている私達は、今後の患者様と家族の幸せのために必要である情報を見極め、直感だけを信じて行動することがないように、日々の看護に邁進したいと思います。セミナーに参加させていただいたことで、忙しさの中忘れかけていた看護師としての使命を再認識することができました。お話しくださった当事者の方、セミナー担当の方々へ心から感謝いたします。

理事会報告

第5回理事会報告

日 時：2008年7月3日（木）18：00～21：15
場 所：聖路加看護大学 506
出席理事：森明、有森、森恵、野澤、塩沢、遠藤、村本、長岡、小川、清水

【報告事項】

- 各委員会報告
 - 編集委員会：論文投稿規定の修正部分を説明。
 - 実践開発委員会：専門家より情報提供を受け、相談メールへ回答。認定看護師へのアンケート案を作成中。
 - 広報委員会：関連学会等でのPR活動を推進中。
- その他
 - 第6回日本生殖看護学会学術集会 進捗状況
 - 第6回日本生殖看護学会総会資料の確認
 - 看保連平成20年度研究助成申請について
 - ・排卵誘発剤の自己注射を安全に実施するための指導プロトコルの作成に関する研究の申請書を提出。
 - 日本看護系学会協議会総会の報告

【審議事項】

- 入会審査：6名の新規入会を承認。
- 「入会のご案内」パンフレット
 - 一部修正後に増刷の予定。修正箇所の確認。
- 相互リンク依頼
 - 看護管理者サードレベル教育課程修了者会とのホームページ相互リンクの依頼、受諾。
- 平成20年度研究助成の審査と承認
 - 2題の申請。要修正箇所を提示し、総会前までの再提出をもって採択。
- 投稿論文の印刷ページ数超過の場合の対応
 - 超過1ページあたり5,000円の実費徴収。
- 不妊看護ネットワーク時代の繰越金：本学会へ。

第6回理事会報告 (書面)

日 時：2008年7月16日（水）
入会審査：2名の新規入会を承認。



第7回理事会報告

日 時：2008年7月19日（土）17：00～18：00
場 所：兵庫県立大学 明石キャンパス
出席理事：森明、有森、野澤、村本、塩沢、小川、清水、福田、岸田

【報告事項】

- 各委員会報告
 - 広報委員会：パンフレットの印刷準備中。
 - 実践開発委員会：研究助成の申請者2名より期限内に再提出があり、平成20年度研究助成の対象として採択。

【審議事項】

- 平成20年度日本生殖看護学会総会要綱(案)の確認
 - 要修正箇所の確認
 - 総会の進行の確認および内容の修正
 - ・会計監査報告の審議に先立ち、中間報告となった経緯を森明理事から報告。最終決算・予算書は9月のニューズレター送付時に同封、異議があれば申し立てるよう説明。
 - ・次々期学術集会の学術集会長は、岸田理事に決定。

第6回 日本生殖看護学会 総会報告

日 時：平成20年7月20日（日）13:05～13:35
 場 所：兵庫県立大学 明石キャンパス 講堂
 出 席：会場出席者50名、委任状92通
 （本学会則第16条により総会成立）
 総合司会：有森理事 議 長：野澤理事

・申請件数：2件 ・採択件数：2件

- 1) 荒井洋子氏：「不妊治療後に妊娠し出産した女性の身体イメージとアイデンティティに関する研究」
- 2) 實崎美奈氏：「不妊症看護認定看護師教育課程の評価と課題」

＜報告事項＞

1. 理事会報告（森理事長）
7回（うち2回は書面）の理事会について報告。
2. 総務（事務局）報告（有森理事）
平成20年7月3日現在、会員数は295名。主な活動は会員管理、関連団体・機関への対応と学会ホームページの運営・管理。
3. 委員会活動報告
 - 1) 常任委員会
 - ◆実践開発委員会（福田理事）
 - (1)ホームページ上の学会員における看護上の相談対応相談件数2件。相談後1年以上経過した相談内容をニュースレターNo16、17、19で公開。
 - (2)不妊症看護認定看護師フォローアップ研修の支援不妊症看護認定看護師フォローアップ研修の企画・進行（平成20年7月19日（土）開催）。不妊症看護認定看護師73名中43名が参加。
 - (3)不妊症看護認定看護師に関する調査ワーキンググループへの参加
日本看護協会からの委託で、不妊症看護認定看護師のニーズ調査を行うためのアンケート調査の支援。
 - ◆教育推進委員会（森恵美理事）
 - (1)第4回生殖看護実践セミナーの実施
聖路加看護大学21世紀COEプログラムとの共催で、平成19年9月8日「授かったいのちを支援する方法」を実施。
 - (2)第5回生殖看護実践セミナーの企画および実施
日本看護協会神戸研修センターとの共催で、平成20年7月19日「不妊治療後に妊娠した夫婦への継続的支援」を実施。勉強会は、参加希望者少数にて開催せず。
 - ◆広報委員会（塩沢理事）
 - (1)ニュースレター16～19号の企画・編集及び発行
 - (2)学会ホームページへのニュースレター掲載
 - (3)関連学会などでPR活動（学会リーフレットの配布）
 - ◆編集委員会（村本理事）
 - (1)日本生殖看護学会誌第5巻第1号の発行
 - (2)学会誌への原稿投稿手順の見直し
投稿原稿数を増やすための検討、学会誌発行までのスケジュールの見直し、投稿規定の見直しおよび改正。
 - ◆将来検討委員会（長岡理事）
 - (1)国内外の情報収集と発信
 - (2)研究助成の運営・管理
 - 2) 特別委員会（森理事長）
 - ◇学会発展構想ワーキンググループ
学会の活動を活性化し、今後一層の発展を目指し、必要な視点・取り組みを推進。
 - ◇看保連対応ワーキンググループ
・看保連の看護技術評価委員会の総会に出席。本学会から研究助成を申請したが、不採択。
・平成20年度診療報酬改定に向け本会から提出した医療技術評価提案書「不妊症外来指導料」は、看保連から中医協に提出した医療技術評価提案書10件のうちの一つに該当。
4. 平成20年研究助成申請結果（森理事長）
平成20年7月3日に研究助成審査会を開催、同日開催の第5回理事会で承認。

＜審議事項＞

1. 平成19年度収支決算中間報告ならびに会計監査報告（清水会計担当理事、遠藤監事）
森理事長より、今年度の学術集会が年度途中であるため、今回は中間報告となること、9月のニュースレター送付時に最終の収支決算書を同封し、異議があれば申し立ててもらおうという形にしたい旨説明。清水理事より平成19年度の一般会計および特別会計の収支決算中間（案）を報告。遠藤監事より、決算書面およびそれに付随する証票に照らして監査を執行した結果、適当であった旨報告。
*会場の拍手により承認。
2. 平成20年度活動計画
 - 1) 常任委員会
 - ◆総務（事務局）
 - (1)個人情報保護法に基づいた会員管理とホームページの運営・管理の実施
 - (2)関連団体・機関への会議出席や学会としての意見提出の実施と拡大
 - ◆実践開発委員会
 - (1)ホームページ上の学会員における看護上の相談対応
 - (2)相談活動のPR
 - (3)平成19年度に引き続き、不妊症看護認定看護師に関する調査ワーキンググループに参加
 - ◆教育推進委員会
 - (1)セミナー・勉強会の開催
 - ◆広報委員会
 - (1)ニュースレター4回の企画・編集及び発行と、ホームページに掲載
 - (2)関連学会などでPR活動（学会リーフレット配布）
 - ◆編集委員会
 - 投稿原稿の受付、査読の依頼、採否の決定。学会誌第6巻第1号は、第6回学術集会の講演等寄稿、学会員の研究論文等を掲載。平成21年6月1日発行の予定。
 - ◆将来検討委員会
 - (1)国内外の情報収集と発信
 - (2)研究助成関連の運営・管理
 - 2) 特別委員会
 - ◇学会発展構想ワーキンググループ
計画を引き続き具現化していくために活動。
 - ◇看保連対応ワーキンググループ
昨年同様、積極的に活動。
*来年度は2回目の役員選挙を行う年度であり、今後選挙管理委員会を立ち上げ活動に入っていく予定である旨説明。
*会場の拍手により承認。
3. 平成20年度収支予算中間案（清水理事）
平成20年度収支予算中間案について説明。
*会場の拍手により承認。
4. 次期・次々期学術集会の開催と学術集会長（森理事長）
平成21年開催の次期（第7回）学術集会長は三重県立看護大学の村本淳子氏（平成21年9月13日開催）、平成22年開催の次々期（第8回）学術集会長は徳島大学の岸田佐智氏が選出された旨報告。
*会場からの拍手により承認。

●●●2008年 これから行われる学会・研修会等のお知らせ●●●

月	日	学会・研修会名	会場	照会先・事務局
9月	13日・14日	日本ヒューマン・ケア心理学会 (第10回)	京都大学医学部人間 健康科学科 京大病院西構内 (京都市)	京大医学部人間健康科学科菅研究 室気付 第10回大会事務局 TEL/FAX (075)751-3961 http://www.cog.is.tohoku.ac.jp/ ~siwasaki/
10月	4日	性科学セミナー (第10回)	京都大学医学部構内 芝蘭会館 (京都市)	http://www14.plala.or.jp/jsss/
	5日	日本性科学会 (第28回)		京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻家族看護学講座 TEL/FAX (075)751-3971 http://www14.plala.or.jp/jsss/
	11日・12日	日本IVF学会 (第11回)	大阪国際会議場 (大阪市)	日本IVF学会事務局 TEL (06)6534-8824 FAX (06)6534-8876 http://www.ivf-et.net/
	23日・24日	日本生殖医学会 (第53回)	神戸国際会議場 (神戸市)	兵庫医科大学産科婦人科学教室 TEL (0798)45-6481 FAX (0798)46-4163 http://www.jsrm.or.jp/
11月	5日～7日	日本母性衛生学会 (第49回)	シェラントン・グラ ンデ・トーキョーベ イ・ホテル (浦安市)	第49回日本母性衛生学会事務局 TEL (03)5275-1191 FAX (03)5275-1192 http://www.bosei-eisei.org/
	8日～12日	American Society for Reproductive Medicine 64 th Annual Meeting	サンフランシスコ (合衆国)	ASRM http://www.asrm.org
	11日・12日	日本看護サミットとうきょう'08 (第13回)	東京国際フォーラム (東京都千代田区)	(社)東京都看護協会内:「第13回 日本看護サミットとうきょう'08開 催事務局」 TEL (03)5229-1515 FAX (03)5229-1524 http://www.tna.or.jp/dnn/
12月	13日・14日	日本看護科学学会 (第28回)	福岡国際会議場/ 福岡サンパレスホテ ル&ホール (福岡市)	福岡県立大学看護学部看護学科 TEL (0947)42-1964 FAX (0947)42-2043 http://plaza.umin.ac.jp/~jans/
	11日～14日	日本家族計画協会 「コメディカルのための遺伝 カウンセリングセミナー (上 級コース)」 (第32回)	東京八重洲ホール (東京都中央区)	日本家族計画協会 研修課 TEL (03)3269-4785 FAX (03)3267-2658 http://www.jfpa.or.jp/
2009年 1月	18日	日本生殖医療心理カウンセリ ング学会 (第6回)	大阪国際会議場: グランキューブ大阪 (大阪市)	日本生殖医療心理カウンセリング 学会 事務局 TEL (045)937-1039 FAX (045)937-1029 http://www.repro-psycho.org/
3月	21日・22日	日本助産学会 (第23回)	タワーホール船堀 (東京都江戸川区)	第23回日本助産学会学術集会運営 事務局 TEL (03)3219-3541 FAX (03)3292-1811 http://square.umin.ac.jp/jam/

* 2008年9月7日現在の情報です。詳細は各学会・学術集會事務局へお問い合わせ下さい。

もし不妊看護の現場で行き詰ったら… 日本生殖看護学会が相談にのります

実際に患者さんと関わっていく中で、「目の前にいるこの患者さんにどのように対応したらいいのだろうか?」「患者さんとゆっくり話ができる環境を作るためにはどうしたらいいのか?」など、臨床の現場ではシステムや看護観、倫理観などの中で問題やジレンマを感じるがあると思います。

実践開発委員会では、このような様々な問題に直面した時に直接ご相談をお受けし、よりよい不妊看護の方向性を一緒に考えていきたいと考えています。現在、このシステムは日本生殖看護学会のホームページ (<http://jsin.umin.jp/>) からのみのアクセスとなります。

会員の皆様からのご相談をお待ちしています! なお、お寄せいただいたご相談の中には、同じような悩みを持つ会員の皆様の参考になるものが多く含まれています。相談者の同意を頂いた上、相談後1年以上経過した後、相談された方が特定できない形に加工し、「不妊看護に関するQ&A」として、ニュースレターやホームページに順次掲載いたします。どうぞご了承下さい。

◆実践開発委員会で扱う“相談・問題”とは…

1. 事例の相談
2. 生殖医療の知識的なことに関する相談
3. 不妊の方と向き合う時の看護職自身のジレンマに関する相談
4. 看護する場の改善(相談室開設など)にともなう相談 など



◆相談される場合は…

日本生殖看護学会のホームページにアクセスし、専用の「ご相談内容記入用紙」に相談内容を出来るだけ詳細にご記入後、送信してください。後ほど、お返事を送らせていただきます。

不妊症看護認定看護師
リレー寄稿

No.
3

コツコツ楽しく、そしてチャレンジ! IN 大阪

越田クリニック 藤島 由美子

秋の気配を感じる季節になりました。不妊症看護認定看護師5期生の藤島由美子です。

『食欲の秋』ですね。10月には神戸で第53回日本生殖医学会総会・学術講演会が行われる予定です。神戸在住の私にとっては“学会で遠方に出かける楽しみ!”がないのが残念ですが、研修仲間と会えることを楽しみにしています。大いに神戸の食や観光もお楽しみください。

私は大阪の不妊医療専門施設である越田クリニックに勤務しています。バトンをいただいた浅野さんと同じく当院ももうひとりの認定看護師 西田久美子と一緒に活動をしています。暴走してしまう私を止める役で、いつも客観的な視点で見てくれるよきパートナーでとても心強いです。

このようなバトンを受け取ったものの、認定看護師として何ができているのか?と考えてしまいます。まずは自施設の業務整理や手順書作成などを手がけています。治療が複雑化する中で出来るだけ業務整理をし、患者様と関わる時間が多くもてるようにそして待ち時間が短縮できるようにと考えています。日常業務の中で各スタッフが問題意識を持ち、改善に向けてどんどん問題点を挙げてくれます。解決のための方策を考え実行するのは大変ですが、やりがいを感じています。

院外活動としては、第6回日本生殖看護学会学術集会以企画委員をさせていただきました。企画・運営をするにあたり検討に検討を重ね、緻密な計画を立てて成り立っているのを知り、ひとつひとつすべてが勉強になりました。もうひとつは、関西地区勉強会を来年早々に計画しています。出来るだけ多くの方に参加していただき、不妊症看護の質向上ができるよう勉強できたらいいなと思っています。他の地区のように、定期的に勉強会を開くシステム作りもしていきたいと考えています。

認定看護師になったときは、「何かをしなければならぬ」と焦る気持ちでした。しかし気持ちばかりで何も進みませんでした。焦らずにできることからコツコツとやっていたいこうと思えました。みんなの力を借りながら、少しずつ前を見て進めています。これからも何ができるかを考えながら、地道にそして楽しくやっていたいと思います。でも時にはチャレンジもしたい(暴走しないように)と思っています。

次にバトンを渡すのは奈良県の一庵さんです。一庵さんの活動報告を楽しみにしています。よろしくお願いたします。

各地区で開催する勉強会の支援

教育推進委員会では、会員が主催する各地区の勉強会を支援したいと考えております。勉強会を企画されている代表者の方は、開催日時、開催場所、テーマあるいは内容、連絡先（住所、電話番号、FAX番号、メールアドレス）等を右の連絡先までご連絡ください。よろしくごお願い申し上げます。

教育推進委員会担当理事 森 恵美

教育推進委員会担当理事

森 恵美 mori@faculty.chiba-u.jp

千葉大学看護学部 母性看護学教育研究分野

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

TEL : 043-226-2410

FAX : 043-226-2414

掲示板

聖路加看護大学看護実践開発研究センター
不妊症看護認定看護師
教育課程からのお知らせ

2009年度の不妊症看護認定看護師教育課程の研修生を追加募集いたします。

詳細は、本学ホームページ (<http://rcdnp.slcn.ac.jp/>)にてお知らせしています。

願書受付期間：2008年11月21日(金)～11月28日(金)

試験日：2009年1月7日(水)・8日(木)

課程開始：2009年6月1日

*毎週金曜・土曜の2日間が授業日です。

ただし、8月末～9月末の1ヶ月間は平日連日の集中授業、1月～2月の1ヶ月間は実習になります。

課程終了：2010年2月28日

事務局からのお知らせ

1. 日本生殖看護学会へのお問い合わせ、会員に伝えたい情報、ニュースレターに関するご希望・ご意見などがありましたら、FAX：03-6226-6380もしくはE-mail：jsin@slcn.ac.jpまで、お気軽にご連絡ください。
2. ニュースレターは郵送ではないので転送はされません。したがって、住所・氏名・所属等の変更がある方は、速やかにご連絡ください。
3. お知り合いの方をぜひ日本生殖看護学会へお誘いください。入会希望の方がいらっしゃいましたら、入会案内をお送りしますので、お名前、ご連絡先をお知らせください。
4. 日本生殖看護学会ホームページ (<http://jsin.umin.jp>) を適宜更新しています。ぜひ新しい情報をご活用ください。

重要 会費の納入をお願いします

平成20年度会費(平成20年9月1日～平成21年8月31日までの諸活動に伴う会費です)の納入をお願いいたします。なお、過年度の会費未納の方は、早急に納入をお願いいたします。

編集後記

ようやく朝夕涼しくなり、トンボを見かけるようになりました。公園にはコスモスが開花したというニュースも流れ、秋ですねえ。今年の夏は、例年以上の異常気象でした。猛暑が続いたと思えば、「ゲリラ豪雨」という言葉も生まれ、近隣の神戸でも死傷者が出てしまったことは、とても悲しいことです。

話は変わりますが、今年の目標である「ワーク・ライフ・バランス」が大切だと思いつつ、なかなか実行できない私です。そんな中、職場では第一水曜日は「コミュニケーションの日」、第三水曜日は「家族の日」と称して、18時に冷暖房が停止します。毎回事務より一斉メールでお知らせが入るのですが、その度「帰りたいけど帰れない、その分仕事を減らして」とムツとしている私です。そのストレスが、この秋食欲にいかないように注意し、健全に発散したいと思います。

(広報委員：野澤美江子、塩沢直美、林はるみ、安成智子)

日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing : JSFN

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1
聖路加看護大学内

TEL & FAX 03-6226-6380

E-mail jsin@slcn.ac.jp(当面、このアドレスを使用)

ホームページ <http://jsin.umin.jp/>